

平成25年度 学術情報リテラシー教育担当者研修会
大阪会場(10.16)東京会場(11.27)

学術情報リテラシー教育 における企画・立案

同志社大学 学習支援・教育開発センター事務長
社会学部嘱託講師「学術情報利用教育論」

井上真琴



本日の焦点

学術情報リテラシー教育における 企画力

自学の教育体系に
応じた学術情報リテラシー教育
プログラム



「何に」焦点をあてるのか
「できる」ようになるにはアクティブ・ラーニング

プログラム内容の企画と立案

教育と連携するために「何が」必要か？


教学との連携の接点

どうすれば円滑な実施ができるのか？

運営方法の工夫

ま と め

学術情報リテラシー教育の企画立案力を高めるには、

1. ツール操作にとどまらず、情報源を使う時の「考え方」「読み方」「可用性」等に焦点を当てる。
 2. アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた（例えばタスクベースの）プログラムを考える。
 3. 「人はどう学ぶのか」=学習科学，教育工学の理論や知見を学ぶ。
-
- 

教育開発・実践センター
Fder / Academi Instructor

図書館
図書館員

高等教育論の知見
教育方法論の知見

図書館情報学の知見



大学が提供する
情報資源

分類

独自のスキル

目録

教育理論

学習科学

教育工学

教授法

ラーニング・コモンズ

情報リテラシー教育

Team Teachingによるコラボ体制

情報の有効活用
学習成果の引出し方が上手

図書館の「学術情報流通」 =
ロジスティクスの論理では…

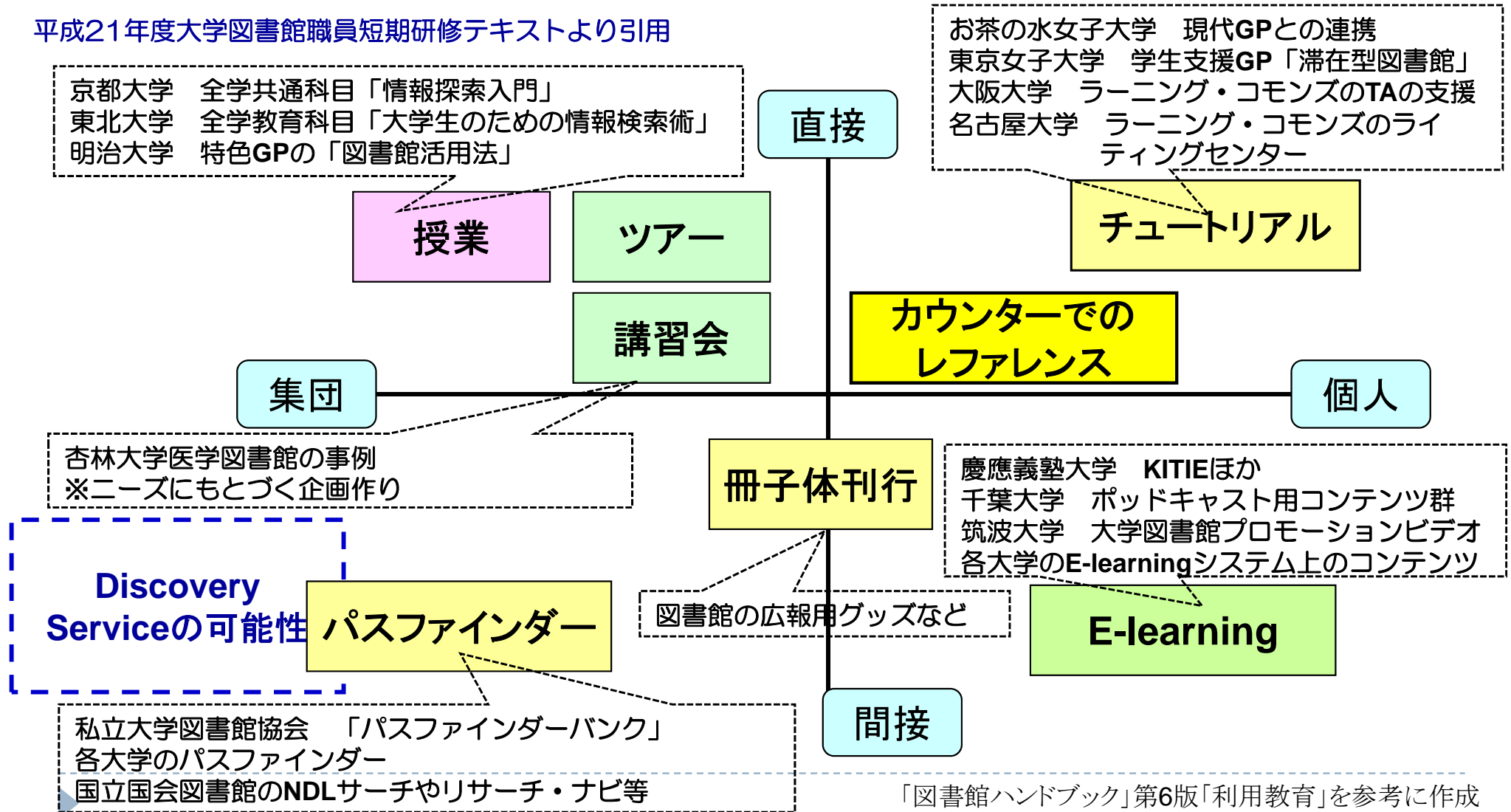


I.プログラム企画・立案の焦点は何か

学術情報リテラシー教育のいろいろ

■ 現在の大学における学術情報リテラシー: 代表的な実践例

平成21年度大学図書館職員短期研修テキストより引用



図書館の情報リテラシー教育の限界

- ▶ 教育理論・学習科学が教職協働の共通言語
- ▶ 図書館での情報リテラシー教育の限界

= 「情報を使って、学習成果(アウトカムズ)を出すプロセス全体を指導・支援するサービス」
になっていない。

アクティブ・ラーニング(協同学習, 実践の文脈)
を取り入れたプログラムの開発が焦点



同志社大学のこれまでの取組み

第1段階：情報源の紹介と検索方法を焦点とする
プログラムの開発と実施

※高額契約データベースの利用促進と財務部からの
批判回避

第2段階：「考え方」「思考の道筋」を重視した実践
的・総合的プログラムの開発と実施

※事例教材の工夫，検索指導の工夫

《今後の課題》

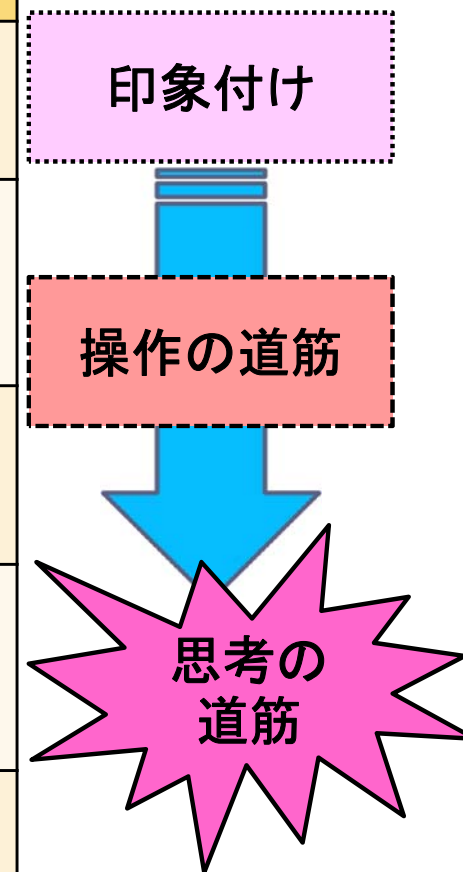
第3段階：アクティブ・ラーニングの手法を使った
プログラムの開発と実施

※学習支援の視点を組み込んだ企画・立案



講習会プログラム「情報探索の技」の体系

	企画・構成 仕様確定	講師
入門・初級(4コース) 役立つ図書館活用術	図書館スタッフ (初年次教育コースと連動)	委託
初級編(4コース) 30分でわかる	図書館スタッフ	図書館スタッフ
初級編 読んでみよう!	図書館スタッフ	図書館スタッフ
中級編(3コース) 90分でバッチリ	図書館スタッフ	図書館スタッフ
中級編(5コース) プロが教える	委託	委託



具体的なプログラム像

「卒論テーマ探索の術」(同志社大学)

「情報探索と表現」(青山学院大学)

学術情報リテラシープログラムの焦点

- ▶ 探索して
- ▶ 探索して
- ▶ 探索して

プ
ロ
セ
ス

グループで、アクティブ・ラーニング

<成果>

- イベント企画書をつくる。
- ポスターをつくる。
- テーマを形づくる。

情報を使って成果を出すための、**思考の道筋・思考のスタイル**

《情報を主体的に使いこなす力》

(特に図書館・図書館情報学でいう)情報リテラシーとは、情報の探索・収集に関わるスキルが中心となっている(と思われる)。しかし、情報リテラシーは、入手した文献などを読解・分析し、その成果を表現・伝達していく一連の過程にわたるものであり、単なる機器操作にとどまるものでもない(ととらえたい)。まさに、「情報」を活用して、さまざまな「問題」を解決していくための総合的力である(と捉えたい)。


野末俊比古. 「情報リテラシー教育」とは何かを考えるにあたって. 情報管理. 2009, vol.52, no.3, p168-171.



新しい教育手法の登場

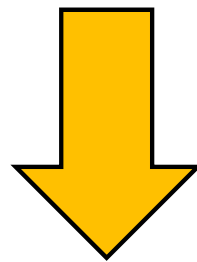
学生の主体的・能動的な学びを引き出す教授法(アクティブ・ラーニング)を重視し,例えば,学生参加型授業,協調・協同学習,課題解決・探求学習,PBL (Problem/Project Based Learning)などを取り入れる。大学の実情に応じ,社会奉仕体験活動,サービス・ラーニング,フィールドワーク,インターンシップ,海外体験学習や短期留学等の体験活動を効果的に実施する。学外の体験活動についても,教育の質を確保するよう,大学の責任の下で実施する。

学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ) 2008.3



学習（学ぶ）とは何か

- ▶ 日々得る情報を批判的に摂取し、新しい知識を創るために、頭の中の思考のスキーマ、インデクスを更新し、知識を再定義・再構成するプロセスそのもの。



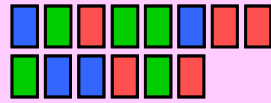
Fabulous!!

エルゼビアサイエンス ライブラリ・コネクトセミナー

- ▶ 「情報リテラシー教育」(2009. 12)

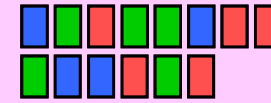
学習（学ぶ）とは何か

データ読み込み



決められた構成定義（スキーマ）
どおりインデクス化

情報取得



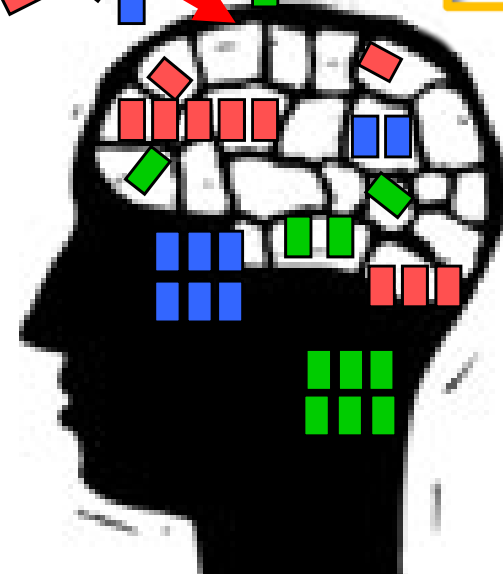
- ① その都度その都度、
- ② 構成定義（スキーマ）を再定義し、
インデクスの再編成を行う

スキーマの更新、
インデクス再作成
情報の関係づけ、意味づけ

学ぶとは、自発的な
知識の変容

データベース

頭の中の認識データベース



情報リテラシーの定義

情報リテラシーを持っている人は、つまるところ、学習の方法を知っている人である。学習の方法を知っているのは、情報がどのように構造化されているか、情報をどのように見つけるか、どのように利用すれば他人が自分の成果を撮取して学んでくれるかを知っている。

また、どのような作業や判断においても必要な情報を見つけることができるので、生涯を通じて学んでいく。

*ALA, Presidential Committee on Information Literacy,
Final Report (1989)*

※Knowing how to learn , Learning how to learn

⇒ 中教審「学士課程教育の構築に向けて(答申)」と同心円

Ⅱ.教育連携のブレークスルーはどこにあるのか？

図書館とアクティブ・ラーニングの関係

- ▶ **学術情報委員会**（科学技術・学術審議会，学術分科会）
「学術情報がアクティブ・ラーニングに果たす役割を
明確にしてほしい」

従来：モノ（情報）があって、配信する【モノ重視】

学術情報流通：ロジスティックスの視点で語りすぎた
きらいあり（インフラ面に偏重）

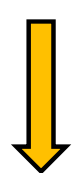
今後：まず学びの行動があって、モノ（情報）を使って、
人の「認知」を変える支援をする【コト重視】



Ⅱ.教育連携のブレークスルーはどこにあるのか？

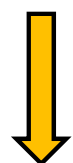
事例：ラーニング・コモンズが必要な理由

①高等教育は、学習成果 (Learning Outcomes) 重視に移行



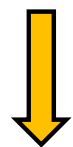
シラバス「〇〇ができるようになる」
「教育」から「学習支援」へ

②学習成果を出すのに、アクティブ・ラーニングは有効



ラーニング・ピラミッドを見よ
学びの「会議化」

③アクティブ・ラーニングは、基本は複数人数協同で行う



他者という「鏡」を通しバランスをとる

④協同学習・協調学習の手法を取り入れたい



相互刺激, 相互支援, 葛藤と調整
ピア・ラーニング, ピア・サポート

⑤上記を可能にする学習環境が必要



Ⅱ.教育連携のブレークスルーはどこにあるのか？

前頁からの続き



- ⑥正課授業の教室＝ラーニング・スタジオ
正課の授業外学習でも同様の学習環境＝
ラーニング・コモンズ(ラーニング・スタジオと「1対」)



- ⑦ラーニング・コモンズの利用が増えると、
- 授業外学習の増大, 単位制度の実質化につながる
 - リーディング・アサインメント型の課題ではなく,
具体的な行動のなかで質の高い学びを覚える
(中教審答申:「学修の質の転換」)



- ⑧高等教育の質保証の一翼を担う学習環境の整備
-



授業

教える(教育)



学ぶ(学習)

《改善に向けた方策》

教育力開発:FD

インストラクショナル・デザイン(ID)
教授法(Pedagogy)



学習力開発:SD

学びの深化, 学びの質向上

授業外学習

※学びのマネジメント(省察的思考)
モチベーションの質
理解内容の質
学習の進め方
(他者とのかかわりの中で)

ラーニング・コモンズ
(Unlearn: 学びほぐし)



Ⅱ.教育連携のブレークスルーはどこにあるのか？

◎ 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会

「大学図書館の整備について」(審議のまとめ) —変革する大学にあって求められる大学図書館像—

2010年12月3日

1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け
 - (3) 大学図書館に求められる機能・役割
 - ① 学習支援及び教育活動への直接の関与
2. 大学図書館職員の育成・確保
 - (2) 大学図書館員に求められる資質・能力等
 - ① 大学図書館職員としての専門性
 - ② 学習支援における専門性
 - ③ 教育への関与における専門性
 - ④ 研究支援における専門性

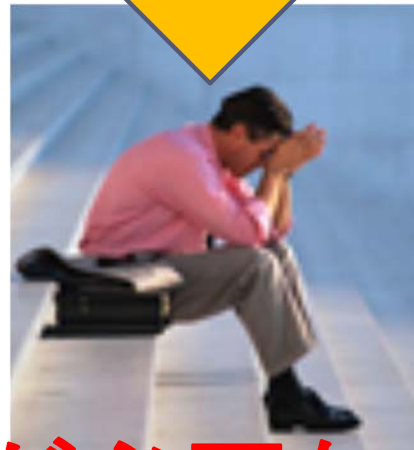
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

▶ (参照2013-07-01)

Ⅱ.教育連携のブレークスルーはどこにあるのか？

アクティブ・ラーニングの手法を 学術情報リテラシー教育に取り込めるか

2000年～2005年頃のALAでの議論
情報リテラシー教育をアクティブ・ラーニングで、
展開できるかどうか。



何が必要なのか？

欧米と日本の学習支援スタッフの違い

学習支援に必要な能力

- ▶ 支援するひとが、インストラクショナル・デザインや学習環境デザインを知っている。
- ▶ 教授法・教育手法をはじめ、学習理論＝「人はどう学ぶのか」を学んでいる。
※アンカードインストラクション、ジグソーメソッドほか

上記のことに基づいた企画，立案，開発，運営



Ⅱ.教育連携のブレークスルーはどこにあるのか？

Blended Librarian, Embedded Librarian(に学ぶ

▶ Blended Librarian :

図書館スキルをIT技術, 授業設計技術, 教育工学等と結びつけて大学の教育現場で活躍する図書館員

The Blended Librarian.

<http://crln.acrl.org/content/65/7/372.full.pdf> (参照 2011-06-06)

▶ Embedded Librarian:

図書館を離れ, 利用者が活動している場から, 利用者と活動とともにしつつ情報サービスを提供している図書館員

鎌田均. 「エンベディッド・ライブラリアン」: 図書館サービスモデルの米国における動向. カレントアウェアネス. 2011, no.309, p6-9.

ワークショップのような実践的な情報リテラシー教育が実行でき, 情報の特徴や信頼性を批判的に評価することを, 学生のリサーチプロセスの全領域に関わって指導する。



ご参考までに(1)

学習科学・学習理論を理解するために

連載 5分でわかる学習理論講座(全11回). Beating(メールマガジン).

2005, no.11－2006, no.22.

<http://www.beatiii.jp/beating/index.html>(参照 2012-01-20)

※連載内で紹介されている文献すべて

中原淳, 金井壽宏. リフレクティブ・マネージャー:一流は常に内省する. 光文社.
2009.

井上真琴. ラーニング・コモンズは大学図書館を変える. 私学経営. 2013, no.460,
p.30-36.

井上真琴. “大学図書館の学習支援”. 平成24年度大学図書館職員長期研修配付
資料. 2011. <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/2012/17.pdf>(参照 2013-07-07).

井上真琴. なぜ, ラーニング・コモンズが注目されるのか. 私立大学図書館協会
会報. 2011, vol.135, p.73-87.

井上真琴. FDとの接点から図書館を視る. 丸善ライブラリーニュース. 2009, no.7・8,
p12-13.



押えておくべき「答申」類など

- ▶ 2008年3月25日
中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/080410.htm
(参照2013-07-01)
- ▶ 2008年12月24日
中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm
(参照2013-06-08)
- ▶ 2012年3月24日
中央教育審議会大学分科会大学教育部会「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ(審議まとめ)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm
(参照2013-06-08)
- ▶ 2012年8月8日
中央教育審議会大学分科会大学教育部会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ(答申)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm
(参照2013-07-01)

